

先生方、そして教育現場に関わるお仕事をされている皆様へ

いつも子どもたちに愛情を持って接していただき、感謝申し上げます。先生方におかれましては、感染症対策等について、日々様々な対応を重ねられ、苦慮しておられることと存じます。

学校生活においても、当初は緊急的なものだったが、常時マスクの着用や活動自粛の生活が一年半以上続いており、子どもたちへの長期的・将来的な影響について大変不安を感じております。（「あるお母さんからのお手紙」をご参照下さい）

教育現場における新型コロナ感染症対策や、新しい生活様式がこのまま継続されていくことについて、先生方のみならず保護者も含め、子どもたちと関わる大人ひとりひとりが、一旦立ち止まって考えてみる必要があるのではないかと思い、このたびお手紙を書かせていただきました。

今の子どもたちの生活は、元気いっぱいの笑顔が、毎日マスクで覆われ、呼吸はしづらく、会話も聞き取りづらく、お互いの表情が読み取れないという状況です。

お友だちや先生方と、興味のあることがあったら寄り集まったり、時には手を繋いだり、肩をよせあったりといった自然なスキンシップを含めて、豊かな情操を育んでいけるのが、本来の園や学校であり、人間らしい営みではないかと思います。

また、現在、学校給食で行われている「黙食」については、想像するたびに胸が痛みます。私たち大人でも、お友だちと一緒に食事をする時は、心が解放されて会話も弾むものですが、みんなが同じ空間にいるのに、何も話さずに黙々と食器の音だけが聞こえているなど、なんとも心寂しい状況です。

感染症対策として何よりも懸念されることは、子どもたちへのワクチン接種です。現在、5歳～11歳と対象年齢が引き下がっており、いずれ生後6ヶ月から接種させる計画があるようです。

ワクチン接種することが、コロナウイルスに罹患するよりもはるかに負担の少ない方法であるなら、病気を予防する目的として推奨されることも理解できますが、リスクの方が上回るものならば、即中止にされるべきではないでしょうか。

文部科学省から各都道府県の教育委員会に「新型コロナウイルス感染症対策のガイドライン」が届けられ、次に、各都道府県の教育委員会から各市町村の教育委員会に届けられ、そして、各市町村の教育委員会から各学校や園に届けられています。

数ヶ所の都道府県や市町村の教育委員会に赴き、以下の問いかけをしました。

「全国各地で都道府県から届けられた『新型コロナウイルス感染症対策のガイドライン』を各市町村の教育委員会が、学校や園に配っておられますが、それを受けて学校や園が行った感染症対策によって、子どもたちの心や身体に、なんらかの悪影響や健康被害、命に関わるような事態が起こった場合には、ガイドラインを届けておられる教育委員会が責任を取られることになるのでしょうか？」と。

どの教育委員会で質問しても、全く同じ答えが返ってきました。

「子どもは、ただガイドラインを届けているだけで、実際にどういった感染症対策を行うかに関しては、各学校や園の裁量に任せております」

「子どもたちを守りたい」という気持ちは、先生方や、教育現場に携わっておられる皆様、そして保護者もみな同じだと思います。

現在の学校や園でとられている対策や環境が、本当に子供たちのためになっているのか、長期的な観点からも子どもたちの健全な成長と発達にとって適切であるかどうか、今一度、ご検討いただければと思います。

私たち大人が一丸となって、子どもたちの尊い「いのち」を守り、輝かせていくために、共に考え、行動していくことが必要なのではないのでしょうか。

同封の資料をご覧ください、みなさまそれぞれ疑問に思われることなどありましたら、まずは是非、ご自身でお調べいただけたらと思います。同封の資料に関しては「コロワクinfo」サイトにて、情報ソースを全て掲載しております。

資料をお読みいただき、お調べになられて、「何とかして子どもたちを守りたい」と思われましたら、下記サイトの「お問合せ」欄から、私たちにご連絡ください。この手紙と資料を届けられた保護者の方々や地域の方々とお繋ぎさせていただくこともできるかと思えます。

どうか全国各地で、先生方や、現場で働いておられる様々な立場の方、そして保護者が集まり、子どもたちを守るために話し合う場が生まれていきますように…。